OB 紹介

中国ジェイアールバス㈱　運輸部・運輸課
山谷義貴さん：平成 20 年度入学生（数理情報科学プログラム）

今回のOBは中国ジェイアールバス株式会社運輸部・運輸課で働いていらっしゃる山谷　義貴さんです

○仕事内容

私が働いている中国ジェイアールバス株式会社は、JR西日本グループのバス会社です。広島・岡山・島根・山口を拠点とし、高速バスや路線バス、遠足や団体旅行で使うような貸切バスを運行しています。身近なところだと、広大から、東京行きや大阪行きの高速バス、広島バスセンター行きの「グリーンフェニックス」、西条駅行きの路線バスなども走っているので、大学の周りでも見覚えがあるのではないでしょうか。

さて、バス会社の仕事というと、どんなものが思いつきますか？　バスの運転手とかバスガイドというのは想像しやすいと思いますが、バス会社の本社で、しかも運輸部運輸課と言われても、なかなかイメージがしづらいかもしれません。運輸課という部署は高速バスや路線バス（一般的に「乗合バス」と呼ばれます）に全体的に関わる仕事をしている部署で、私はそんな乗合バスの運行状況のとりまとめを主にやっています。乗合バス事業というのは国に対して運行区間や経路、便数、キロ程などを事前に届け出て、それに対して認可がもらえて初めて成り立つ事業です。そして、基本的には、その届け出通りに運行しなくてはなりません。でも実際に運行する上では、その届け出た内容を変更せざるを得ない場合もあります。「台風で高速道路が通行止めになったので一般道に迂回した」、「GWやお盆のUターンラッシュに対応するため、普段は1台で走らせる高速バスを3台に増やした」、「大雪で安全運行に支障が出そうなのでやむを得ず運休した」などなど……。その変更点を記録に残し、キロ程について、最終的には「今月は届出通りに運行すれば走行キロは何キロだったところが、こういった事情でそれぞれ何キロの増減があって、最終的な走行キロは何キロでした」という形に収まります。こうした数値は年度ごとに集計され、「実車走行キロ」として国土交通大臣あてに報告します。

例として台風や大雪を挙げてみましたが、こういった悪天候のときって、バスが運休になったり、高速道路が通行止めになって一般道に迂回したりして、ものすごく仕事が増えるんですよね。バスが何事もなく予定通り走ってくれることは、バス会社に勤める立場としてはもちろんすごく嬉しいことだし、自分の仕事が増えないという意味でもやっぱり一番安心できることかな、と思いますね（笑）。

○この業界を選んだ理由

もともと旅行するのが好きなので、何かの形で旅行に関われる仕事がしたいとは思っていました。あとは自分が山口県の萩市という観光地として有名なところで育ったということもあって、旅行に来た人を出迎えたり、そうした人の動きを通じて地域を活性化させることにも関心があったので、鉄道会社やバス会社、旅行会社のようなお客様を実際に移動させる核となる仕事に就きたいと考え、今の仕事を選びました。

○仕事のやりがい

自分の担当したことが何かの形となってお客様の目に触れる機会があったとき、大きなやりがいを感じます。現在1年生の皆さんが広島大学に入学するとき、生協から送られてきた「BEACON」という冊子の最後の方のページにいくつかの企業の広告が載っていたと思いますが、中国ジェイアールバスも1ページ使って広告を出しています。手元にあれば、開いてみてくださいね。そのページの下の方に「このページの作成は、総合科学部24年3月卒のY．Yでした」とありますが……何を隠そう、「Y．Y」とは私です（笑）。こうやって、自分が関わった仕事が外に出てお客様に見ていただけたり、それをきっかけに実際に利用していただけたり……という流れができれば、とても嬉しいです。

○今後の仕事をしていく上での目標

普段仕事をしていて、先輩や上司から「お前はまだ『想い』が足りない」という趣旨のことを言われることがよくあります。ちゃんと自分なりの『想い』を強くもって会社や世の中に貢献できるように早くなりたい、と思っています。

想いを持って仕事をしている人って、私の周りにはたくさんいます。例えば、会社として何かをやろうとするときには、計画や費用、具体的な流れなどを文書に起こして、上司一人一人に持っていって説明して許可の判子をもらう必要があります（一般的に「立案文書の持ち回り」などと呼びます）。そういう場面で、ちゃんとした

想いや熱意を持って持ち回りをしている先輩の姿は凛々しく見えるし、上司から何を突っ込まれても、的確に自分の言葉で返しているんですよね。『想い』を持って仕事に臨むっていうのは、こういうことなんだなぁ……と日々感じます。

○大学時代の学び

私の在学中はプログラムが全部で10個あって、そのうちの数理情報科学プログラムに所属していました。森本先生のゼミで、「スカイライン問い合わせ」という問題について、コンピュータのプログラミングを行なっていました。でも、主専攻とは別に準専攻として地域文化プログラムの授業も受けていました。浅野先生の「日本環境地誌」とか、高谷先生の「コンピュータ地域研究」とか。懐かしいですね。

○就職活動の苦労

私が就職活動をした年はちょうど東日本大震災が起きた年で、多くの企業に選考時期を少しずらしたり採用人数を減らしたり……といった動きがあったので大変でした。そんな中で就職活動を長く続けていく上で大切だと感じたのは、行った先でちょっと時間を作って観光地を訪ねてみるとか、カフェに入ってみるとか、自分なりに楽しみながら就活と上手く向き合っていくことですね。

○大学時代打ち込んだこと

飛翔の編集委員長も勤めていたのですが、それに加えて、広大の見学に来た人を案内する「キャンパスガイド」という活動にも4年間所属していました。高校3年生の頃、実際に「キャンパスガイド」のガイドツアーに参加して学生にガイドをしてもらったことがあって、楽しそうだなと思ったのがきっかけです。「旅行が好きで、地域を活性化させることにも関心があるから、キャンパスガイドをやろう！」という明確なつながりがあったわけじゃないけれど、今思えば、大学時代に打ち込んだ活動ってほとんどが今の仕事につながっているんですよね。あの頃から、人と関わったり、飛翔やガイドなどの広報活動を通じて身の回りの環境を活性化させたり、そんな活動の魅力に惹かれていたんだと思います。

○大学時代の旅行経験

実は、大学時代だけで、国内47都道府県すべてを訪問しています。特に思い入れがあるのは、大学3年生の夏休みに青春18きっぷで10日間かけて北海道まで行った時のこと。北海道へ向かう途中、宮城県から秋田県までの山地を横切る列車で乗り合わせたおばちゃんと話が弾んで、出身地のこととかこれからの日程のこととか、いろいろと話したんです。そしたらその人、秋田の駅で降りる時に、「何かお土産買って持たせてあげたいけど、荷物になるとよくないから……」って言って、千円札を握らせてくださったんですよね。「自分も旅行する中で人と知り合ったり親切にしてもらったりした経験がたくさんあるから、それをあなたにもこういう形で返したいのよ」って。ビックリしましたが、ありがたくいただきました。一人で旅行すると、行った先々でいろんな人と出会って、いろんな話ができる。だからいいんですよね。

○今に活かされている大学時代の経験

まだ入社して3年目ということもあって、今までの経験が活かせていると実感できる機会がなかなかないのが正直なところです。でも、この4月から高速バスの路線ごとの利用状況や収入状況の分析を担当するようになったんですが、ここには、総合科学部での学びが直接活かせるはずだと思っています。特定の路線の利用状況が前年に対して恒常的に伸びている背景には、その地域での何かの動きがあるはず（最近の例だと、出雲大社の遷宮効果だとか、大阪での「あべのハルカス」やUSJ新アトラクションのオープンだったりします）。そうした、地域的な見方だったり、もちろん状況を分析するための統計的な見方だったり、さまざまな見方が必要になります。だから、総合科学部で幅広くやってきたことをこれからもしっかり活かせるよう頑張りたいと思っています。

○人生に影響を与えている言葉

自分が過ごした山口県萩市の小学校では、いつも朝の会で吉田松陰（萩の子供たちは「松陰先生」と呼びます）の言葉を朗唱する時間がありました。その言葉の中に「至誠にして動かざる者は未だこれあらざるなり」という言葉がありました。5年生の1学期に朗誦したこの言葉は、真心を持って接すれば、相手の気持ちは必ず動かすことができますよ、という意味です。大事にしてきた言葉だし、いろいろな局面で自分に影響し続けている言葉だと感じています。就職活動でも仕事でも、思い通りに進まず辛い思いをすることは出てくるけど、夢に向かって真心を込めて取り組み続ければきっと道が開けると思っています。……なんて偉そうに言いますが、まだまだ、「仕事への『想い』が足りない」と先輩や上司から言われる私。この言葉を胸に、まず目の前の仕事に対して真心を込めて取り組まねばなりませんね……（笑）。

○総合科学部生にひとこと

総合科学部は、自分の関心のあることは何でも学べて、いろいろな関心を持った人が集まる学部です。この環境を積極的に活用して、大学4年間のうちに積極的に人と関わり、様々な経験をし、自分の視野をどんどん広げていきましょう！

【担当】26生　井上萌
26生　村田章博